

⑬7 名取川^{ゆりあげ}関上地区河川防災ステーション整備事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所

キーワード 復興まちづくり、河川防災ステーション、事業連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災からの復旧・復興の一環として、名取川の河口部に河川防災ステーションを整備した事業。隣接区域での土地区画整理事業、かわまちづくりによる商業施設整備と連携し、災害時のみならず平時の回遊性も十分に吟味されており、災害拠点整備の模範となる取組であることが評価された。

1. はじめに

2021年（令和3年）3月に名取川で“初”となる河川防災ステーションが宮城県名取市関上に完成した。

「名取川関上地区河川防災ステーション」は、地域の賑わい復興に資する施設整備とするため、震災復興まちづくりを進める名取市と国土交通省が連携を図り、水防活動の拠点として地域防災力の向上を図るとともに、隣接する「土地区画整理事業」「関上地区かわまちづくり」と一体的に整備、事業連携したことで、複数の観光関連施設との回遊性が生まれ、地域振興につながる新たな交流・憩いの場を創出し、復興まちづくりを実現した。



名取川関上地区河川防災ステーションの連携事業

※「河川防災ステーション」と「土地区画整理事業」「かわまちづくり」が隣接する立地

2. 事業の概要

名取市関上地区は、名取川右岸河口部に位置する低平地で、高速道路ICや幹線道路が近接する交通の要衝となっており、破堤した場合には甚大な被害が想定される。また、東日本大震災により壊滅的な被害を受け、復興まちづくりを進める当該地区において地域の安全・安心の基盤となる水防活動拠点を確保するべく、緊急復旧資材の備蓄、防災ヘリポート、水防作業・建設機械活動スペース、水防センター『名取市震災復興伝承館』等の整備を行い、洪水・災害時の迅速かつ効果的な緊急対応を可能とするとともに、平常時の地域交流を深める活動拠点、

震災伝承の役割や災害学習機能を担う防災教育の拠点を創出した。



関上地区河川防災ステーション 施設整備内容

※備蓄資材は南側エリアに、水防センターや水防活動スペース等は北側エリアに集約配置

※名取市震災復興伝承館は、震災の記憶や教訓を後世に伝承し、防災意識を醸成する施設

3. 事業の成果

まちの復興・再生を目指す「関上地区土地区画整理事業」と水辺空間と一体となった賑わいのあるまちづくりを目指す「関上地区かわまちづくり」を本施設と一体的に整備したことで、地域防災力の一層の強化（ハード・ソフト両面）と水辺へのアクセス性、利便性、回遊性（船着場等）の向上等、観光周遊を促す基盤が確保された。

一方、利活用推進の取組として、関上エリアの観光・交流施設等が互いに連携強化したことで相乗効果が生まれ、さらなる誘客効果、ひいては関上地区全体の魅力が一層、高められ、交流人口の拡大につながっている。

4. おわりに

今後は、名取市関上エリアの観光施設のみならず、名取川を挟んだ対岸の仙台市東部沿岸エリア等との広域的な連携、交流（回遊性の向上等）を深め、水辺を活かした更なる賑わいの創出、地域全体の振興・発展につながる防災拠点、親水空間となることを期待する。



関上地区のかわまちづくり・土地区画整理事業

※市街地整備と一体となった開放的で賑わいのある水辺空間を創出